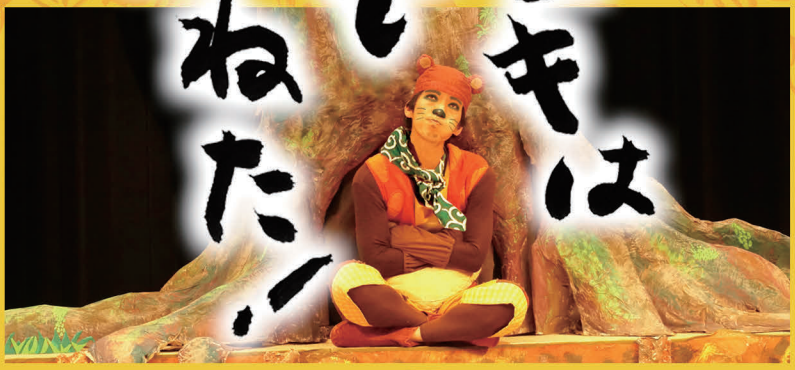
太鼓と芝居の たまっ子座　旗揚げ公演記念作品

欅山風聞記

昔タヌキはとんでねた！

生きるために食うのか
食うために生きるのか

悩み多き腹ペコたぬきが　太鼓作りに命をかける！



作・演出・作曲／末永克行　振付／モトム　音楽／考

●冒頭の音楽だけでもう胸がいっぱい！●元気が出た。涙が出た。自分で考える勇気をもらえた。●３歳の娘が見ることができるか不安だったが、最後までくいいるように見ていた。初めての観劇がたまっ子座でよかった。●まさに今、たくさんの心配や不安や悲しみを超えてつつみ込む作品。胸が熱くなりました。●命について考えさせられ、その深さに感動しました。子どもと家族一緒に見られてよかった。たくさんの人に見てもらいたい、届けたい作品。●生きる喜びを体で感じられる躍動感と迫力に圧倒され、想いが伝わってきた。一人一人の存在の持つ価値を認め合える社会に変えていくのは今の子供たち！その子どもたちの心に多様な種をまくことができる舞台と感じた。

（感想より）

制作にあたって

◆言葉と太鼓を持たない民族はないと言われる程、多くの人々に親しまれてきた太鼓。そこに込められた祈りや願い、燃えたつような魂の響きは、樹に皮を張っただけの単純な楽器から生まれます。◆「あいつは何の役にたつのかねえ」と、齢八百年のけやきの爺さんも呆れるほどの、我らがタヌキ。大太鼓作りに突っ走る彼を見守るけやき山の住人たち。都帰りのキツネ、笑えないウシ…果たしてタヌキの太鼓はドンと鳴るか？◆私たち生き物は皆他者のいのちをもらって生き、自然の営みは、生きることそのものが互いを支えることであると示していると思います。◆けれど今、人間社会は自然を我が物にし、ドローンが21世紀の戦争のリアルを突き付け、いつ終わるともしれない命の蹂躙、痛み、悲しみが日々のニュースとして、子どもたちの目にも届いています。◆どうしたら争いなんか止めて、楽しく生きられるのか、心から笑い合えるのか？◆旗揚げから40年を経た「たまっ子座の原点」とも言うべき本作品を通し、腹ペコたぬきと仲間たちの泣き笑いを通して、観客の皆さんと生きる意味を考え合いたいと、心から願っています。

紹介動画こちら→